



営農タイムリー！



発生予察情報について(5月)

2025年4月30日発行

病害虫発生予報第3号(5月)

京都府病害虫防除所より、5月の予察情報が発表されました。

病害虫発生予察第3号(5月) (抜粋)

予報の概要

作物名	病害虫名	予想発生量 (平年比(前年比))
イネ	ヒメトビウンカ 縞葉枯病 イネミズゾウムシ	並 (並) 並 並 (並)
カキ	炭疽病	並 (並)
野菜類	アブラムシ類	<u>やや多</u> (並)
キャベツ	菌核病	並 (並)
アブラナ科野菜	コナガ	<u>やや多</u> (やや多)
ネギ	さび病 ネギハモグリバエ ネギアザミウマ	並 (やや少) 並 (多) やや少 (並)

イネ

1. ヒメトビウンカ と 縞葉枯病

予報内容 発生量 : ヒメトビウンカ 平年並 (前年並)
縞葉枯病 平年並

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) ヒメトビウンカは、イネ科雑草で越冬するため、前年の発生状況等が翌年の発生に影響する。
- (2) 縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介され経卵伝染する。

2. イネミズゾウムシ

予報内容 発生量 : 平年並 (前年並)

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 前年の新成虫が越冬し、田植え後、水田に侵入して葉を食害する。5月中下旬から卵を産む。
- (2) ふ化した幼虫は、土中で根を食害する。
- (3) イネが根腐れするような水田では幼虫の被害が出やすいので、深水を避け、根を健全に保つ。
- (4) 浅水管理は成虫の産卵行動を阻害し、産卵場所を制限する効果がある。
- (5) 粒剤の育苗箱施用の効果が高い。なお、イネドロオイムシの常発地では、この方法でイネドロオイムシも合わせて防除ができる。
- (6) 育苗箱施用をしなかった場合や田植え後発生が多く、成虫が株当たり0.3頭を越える場合は、そのまま放置すると経済的被害が発生する。

果樹

1. カキ 炭疽病

予報内容 発生量 : 平年並 (前年比並)

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 主として枝の病斑で越冬し、新梢や果実への伝染源となる。
- (2) 新梢の発病が多いと果実の発病が多くなるので、発病を認めた新梢は速やかに切り取り、園外の土中に埋める等処分する。
- (3) 5～6月に降雨が多いと、新梢や幼果の発病が増える。

野菜

1. 野菜類 アブラムシ類

予報内容 発生量 : 平年比 やや多い (前年並)

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 通常、無翅虫が集団で作物を加害するが、密度が高まると有翅虫が現れて分散し、発生が拡大する。
- (2) は種または定植する際には、寒冷紗被覆やシルバーマルチやシルバーテープ等により有翅虫の飛来を防止する。
- (3) アブラムシ類には直接吸汁加害するだけでなく、モザイク病を媒介するものもいる。

アブラナ科野菜には主に3種のアブラムシが寄生するが、**ダイコン、ハクサイ**には**ニセダイコンアブラムシ**と**モモアカアブラムシ**、**キャベツ、ナタネ**には**ダイコンアブラムシ**が多い。吸汁による直接害の他、**各種ウイルス病を媒介**する。

モモアカアブラムシ

特徴 : 移住型のアブラムシで夏寄主は**アブラナ科野菜**の他**ナス、トマト、ピーマン、タバコ、ホウレンソウ**など多くの作物が知られている。冬寄主は**モモ、スモモ**で卵態で越冬する。しかし、関東以南の暖地では、野外のアブラナ科野菜、雑草に胎生で越冬しているのも多く見られる。**発生は4月上中旬から、5月中下旬がピークとなり、6月下旬には少なくなる。9月中下旬から11月上旬にかけ再び多くなる**が、春世代に比べ一般に少ない。胎生雌には淡緑色～淡黄色、および淡赤色の2系統があり、冬期には淡赤色が多い。

ダイコンアブラムシ

特徴 : **アブラナ科作物のみに寄生**し、特に**キャベツ、カリフラワー、コモチカンラン、ナタネ**に多い。成・幼虫とも白色状の分泌物を体表に付着し、寄生する場合コロニーを作る。本種は低温に適しているようで、4月中～下旬から多くなり、梅雨期までに急激に増殖するが、夏・秋には少ない。

ニセダイコンアブラムシ

特徴 : **ダイコン、ハクサイ**に多く、体は黄緑色でうすい白粉を体背におびている。**発生は夏播・秋播に多く、秋期に高温がつづく就多発する。**

モモアカアブラムシ



ニセダイコンアブラムシ



■ キャベツ アブラムシ類の防除体系 例

育苗期に

定植時に

28 ベリマーク SC

[400倍/セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4L)あたり0.5L/育苗期後半~定植当日/灌注/1回]
(アオムシ:アザミウマ類:ウワバ類:コナガ:ネキリムシ類:ハイマダラノメイガ:ハスモンヨトウ:ヨトウムシ:キスジノミハムシ:シロイチモジヨトウ)

1B ジェイエース 殺虫剤 粒剤 [3~6kg/10a(1~2g/株) / 定植時/植穴処理/1回]
(アオムシ:コナガ:ヨトウムシ)

OR

28 プリロツン 殺虫剤 オメガ
[2g/株 / 育苗期後半~定植時 / 株元散布 / 1回] (アザミウマ類)
[1g/株 アオムシ:コナガ:ハイマダラノメイガ]

発生が認められたら

1B ジェイエース 殺虫剤 水溶剤 (アオムシ:コナガ:タマナギンウワバ:ハスモンヨトウ:ヨトウムシ)
[1000~1500倍 収穫30日前まで/1回]

29

ウララ DF

[2000~3000倍/収穫前日まで/2回以内]

4A

スタークル 顆粒水溶剤 [2000~3000倍 / 収穫3日前まで/2回以内]
アルバリン 顆粒水溶剤

ダントツ 水溶剤 [2000~4000倍 (アザミウマ類) / 収穫3日前まで/2回以内]
[2000倍 アオムシ:コナガ]

23 モベント フロアブル (コナガ)

[2000~4000倍/収穫7日前まで/3回以内]
[2000倍 アオムシ:アザミウマ類]

モスピラン 顆粒水溶剤 [2000~4000倍 (アザミウマ類) / 収穫7日前まで/5回以内]
[1000~2000倍 アオムシ:コナガ:キスジノミハムシ]

ローテーション散布

28

ベネビア OD

[2000倍 収穫前日まで/3回] (アザミウマ類)
[2000~4000倍 アオムシ:ウワバ類:オオタバコガ:コナガ:ハイマダラノメイガ:ハスモンヨトウ:ヨトウムシ:シロイチモジヨトウ]

ヨーバル フロアブル

[2500~5000倍/収穫前日まで/3回以内]
(アオムシ:アザミウマ類:ウワバ類:オオタバコガ:コナガ:シロイチモジヨトウ:ハイマダラノメイガ:ハスモンヨトウ:ヨトウムシ)
[2500倍 キスジノミハムシ:バッタ類]

4C

トランスフォーム フロアブル
[2000倍 収穫前日まで/3回]
(ネギアザミウマ)

9B

コルト 顆粒水和剤

[3000~4000倍/収穫前日まで/3回以内]
[3000倍 ネギアザミウマ]

21A

F:39(C1)

ハチハチ 乳剤

[1000~2000倍/収穫14日前まで/2回以内]
(アオムシ:コナガ:ハイマダラノメイガ)
[1000倍 アザミウマ類]

※ (害虫名)は、アブラムシ以外の登録害虫。害虫と同時防除できます。

2. キャベツ 菌核病

予報内容 発生量 : 平年並 (前年並)

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 春に発生が多く、適温は20°C前後、曇天雨が続いた時に発生しやすい。
- (2) 発生終期に形成された菌核は土中に落ち、次作以降の伝染源となる。菌核は土壌中で2～3年間生存可能である。
- (3) 発病株は菌核を形成する前に抜き取り、土中に深く埋めるなど処分する。

3. アブラナ科野菜 コナガ

予報内容 発生量 : 平年比 やや多い (前年比 やや多い)

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 高温、乾燥が続くと発生が多くなりやすく、雨が多いと発生が抑制される傾向がある。
- (2) 年間の発生回数が多く、各発育段階(卵、幼虫、蛹、成虫)が混在する。
- (3) 防虫ネット等を利用し、物理的防除に努める。

成分系	RACコード	薬剤名	適用作物													非結球あぶらな科 葉菜類					
			キャベツ	だいこん	はくさい	非結球はくさい	かぶ	カリフラワー	ブロッコリー	はなやさい類	はつかだいこん	わさびだいこん	なばな	なばな類	みずな		こまつな	チンゲンサイ	のざわな		
有機リン系	1B	エルサン乳剤	◎	◎	◎		◎	◎	◎												
		ジエース ^{殺虫剤} 水溶剤	◎		◎																
		ジエース ^{殺虫剤} 粒剤	◎	◎	◎																
		オルトラン ^{殺虫剤} 水和剤	◎		◎																
		オルトラン ^{殺虫剤} 粒剤	◎	◎	◎																
ピレスロイド系	3A	アクロスリン ^{殺虫剤} 水和剤	◎	◎	◎						◎										
		アデオ ^{殺虫剤} 乳剤	◎	◎	◎			◎	◎					◎							
		テラスタ ^{殺虫剤} 水和剤	◎		◎																
		トレボン ^{殺虫剤} 乳剤	◎	◎	◎																
ネオニコチノイド系	4A	アクタラ ^{殺虫剤} 粒剤5	◎		◎					◎											
		スタークル ^{殺虫剤} 粒剤 アルバリン ^{殺虫剤} 粒剤	◎		◎					◎											
		スタークル ^{殺虫剤} 顆粒水溶剤 アルバリン ^{殺虫剤} 顆粒水溶剤	◎							◎											
		ダントツ ^{殺虫剤} 水溶剤	◎		◎					◎											
		ダントツ ^{殺虫剤} 粒剤	◎		◎					◎											
		モスピラン ^{殺虫剤} 粒剤	◎	◎	◎					◎	◎							◎		チンゲンサイを除く	
		モスピラン ^{殺虫剤} 顆粒水溶剤	◎	◎	◎					◎	◎			◎							
ネオニコチノイド系	28 4A	アベイル ^{殺虫剤} 粒剤 [フリロツ+モスピラン]	◎	◎	◎					◎											
		ジュリボ ^{殺虫剤} フロアブル [フレバソ ^{殺虫剤} +アクタラ]	◎		◎					◎					◎						
		ミネクトデュオ ^{殺虫剤} 粒剤 [フリロツ+アクタラ]	◎		◎					◎	◎										
メソイオン系	4E	フィールドマスト	◎	◎	◎		◎			◎								結球あぶらな科葉菜類(はくさい、キャベツを除く)	◎		
スピノシン	5	スピノエース ^{殺虫剤} 顆粒水和剤	◎	◎	◎	◎			◎	◎					◎		クレソン	みずな、非結球はくさいを除く			
		デリアナ ^{殺虫剤} SC	◎	◎	◎			◎	◎	◎					◎		◎	◎	こまつな、チンゲンサイ、なばな類を除く		
アベルメクチン系・ミルベマイシン系	6	アキ ^{殺虫剤} 乳剤	◎	◎	◎			◎	◎	◎									◎		
		アフーム ^{殺虫剤} 乳剤	◎	◎	◎			◎	◎	◎					◎		◎	◎	◎	なばな類、のざわな、チンゲンサイ、こまつなを除く	

RAC コード	薬剤名	適 用 作 物														非結球あぶらな科 葉菜類		
		キャベツ	だいこん	はくさい	非結球はくさい	かぶ	カリフラワー	ブロッコリー	はなやさい類	はつかだいこん	わさびだいこん	なばな	なばな類	みずな	こまつな		チンゲンサイ	のざわな
13	コテツ フロアブル	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎							◎	◎		こまつな、チンゲンサイ、なばな類、非結球はくさい、非結球メキャベツを除く
14	パタン SG水溶剤	◎	◎	◎				◎		◎				◎		◎		
15	アタブロン 乳剤	◎	◎	◎				◎	◎									
	カスケード 乳剤	◎	◎	◎					◎	◎								なばな類を除く
	ノーモルト 乳剤	◎	◎	◎					◎				◎	たかな		◎		
21A F: 39(C1)	ハチハチ フロアブル	◎		◎				◎										
	ハチハチ 乳剤	◎	◎	◎		◎		◎										
22A	トルネドエース DF	◎	◎	◎					◎									
22B	アクセル フロアブル	◎		◎		◎	◎	◎										◎
23	モベント Xフロアブル	◎	◎	◎					◎									
28	フェニックス 顆粒水和剤	◎	◎	◎		◎	◎	◎		◎	◎	メキャベツ				◎		チンゲンサイを除く
	ベジマーク SC	◎		◎				◎	◎							ケール		ケールを除く
	プロロン 殺菌剤 オメガ	◎	◎	◎					◎									
	ベネビア OD	◎	◎	◎					◎									
	プレバトン フロアブルS	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎						タアサイ		タアサイ、非結球はくさい、なばな類を除く
	ヨーバル フロアブル	◎	◎	◎					◎						◎			こまつなを除く
30	グレーシア 乳剤	◎	◎	◎		◎			◎									◎
	プロフレア SC	◎	◎	◎		◎			◎									◎
34	ファインセーブ フロアブル	◎	◎	◎				◎	◎									◎
UN	プレオ フロアブル	◎	◎	◎				◎	◎					◎	◎	◎		こまつな、みずな、なばな類を除く
11A	エスマルク DF	野菜類																
	トアロー フロアブルCT	野菜類																
	トアロー 水和剤CT	パセリ	えごま(葉)	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)														
	バシレックス 水和剤	野菜類																
		野菜類																

4. ネギ さび病

予報内容 発生量 : 平年並 (前年比 やや少ない)

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 春季と秋季に比較的低温で降雨が多いと多発する傾向がある。また、前年の秋に多発して、冬が温暖多雨に経過すると、春に多発する。
- (2) 肥切れや窒素肥料のやり過ぎは発生を助長するので、適正な肥培管理に努める。
- (3) 被害葉は伝染源となるので、ほ場周辺に放置せず、適切に処分する。

5. ネギ ネギハモグリバエ

予報内容 発生量 : 平年並 (前年比 多い)

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫が葉肉部分を加害し、白い筋状の食害痕を残す。
- (2) 被害葉及び収穫残さが本種の発生源となるので、残さは一箇所にまとめて積み上げ、表面をビニルで被覆する等適切に処分する。
- (4) 1葉あたり1～数匹の幼虫が加害するバイオタイプA(従来系統)とは異なり、10匹以上の幼虫で集中的に加害し、葉を白化させるバイオタイプB(別系統)の発生を確認しているので注意する。

6. ネギ ネギアザミウマ

予報内容 発生量 : 平年比 やや少ない (前年並)

発生生態及び防除上注意すべき事項

- (1) 年間、10世代以上くり返し、葉の表層を食害し、かすり状の食害痕を残す。ネギでは葉鞘分岐部や葉折れの内側に多く寄生する。
- (2) 本種はネギえそ条斑病の原因となるアイリス黄斑ウイルス(Iris yellow spot virus : IYSV)を媒介する。
- (3) 薬剤散布の他、赤色系防虫ネットやUVカットフィルムによる物理的防除が効果的である。
- (4) 被害葉及び収穫残さが本虫の発生源となるので、残さは一箇所にまとめて積み上げ、表面をビニルで被覆する等適切に処分する。
- (5) 殺虫剤散布後は効果を十分に確認し、感受性の低下が疑われる場合は系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

ネギハモグリバエ

特徴 : ネギ、タマネギの葉肉を加害する。

形態 : 体長2mmのハエ、幼虫はウジ状。

生態と被害 : 越冬は蛹で土中で行う。4月頃から発生し、年5~6世代をくり返す。葉肉内にもぐり、葉肉を加害するため、食痕が線状の白斑になる。5月および8~9月に発生が多い。

防除のポイント : ● 苗床および定植時を重点に防除する。



■ ネギハモグリバエ(ハモグリバエ類)の防除体系例

育苗期に

28 **ベリマーク SC**

[400倍 / セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4L)あたり0.5L / 育苗期後半~定植当日 / 灌注/1回]
(アザミウマ類:シロイチモジヨトウ:タネバエ:タマネギバエ:ネキリムシ類:ネギコガ)

播種時・定植時に

4A

スタークル 粒剤

[6kg/10a 定植時 / 株元散布 又は 是種時 / 播溝土壌混和 / 1回] (アザミウマ類)

ダントツ 粒剤

[6kg/10a 植付時 / 植溝処理土壌混和 又は 是種時 / 作条処理土壌混和 / 1回] (ネギアザミウマ)

発生が認められたら

30 **グレースィア** 乳剤

[2000~3000倍 / 収穫7日前まで / 2回以内]

(アザミウマ類:クロバネキノコバエ類:シロイチモジヨトウ:ネギコガ)

プロフレア SC [2000~4000倍 / 収穫前日まで / 3回以内]
(シロイチモジヨトウ:ネギコガ)

21A F:39(C1) **ハチハチ** 乳剤

[1000倍 / 収穫7日前まで / 2回以内]

(アザミウマ類:アブラムシ類:さび病:シロイチモジヨトウ:ネギコガ:べと病:クロバネキノコバエ類)

34 **ファインセーブ** フロアブル

[2000倍 / 収穫3日前まで / 2回以内]
[1000~2000倍(アザミウマ類)]

28 **ベネビア OD** [2000倍 / 収穫前日まで / 3回以内] (アザミウマ類:シロイチモジヨトウ:ネギコガ)

ヨーバル フロアブル [2500~5000倍 / 収穫3日前まで / 3回以内]
(アザミウマ類:シロイチモジヨトウ:ネギコガ) / 3回以内
[2500倍(クロバネキノコバエ類)]

プロバリン [2000倍 / 収穫3日前まで / 3回以内]
(シロイチモジヨトウ:ネギコガ)

28 **プリロツソ** 粒剤 **オメガ**

[6kg/10a 収穫前日まで / 株元散布 / 3回以内]
(アザミウマ類:シロイチモジヨトウ:ネギコガ)

4A
28

ミネクト デュオ [6kg/10a 収穫3日前まで / 株元散布 / 3回以内]
[プリロツソ+アクタラ] (アザミウマ類:シロイチモジヨトウ)

4A

アクタラ [1000~2000倍 / 収穫3日前まで / 3回以内] (ネギアザミウマ)

ダントツ 水溶剤 [2000~4000倍 / 収穫3日前まで / 4回以内] (ネギアザミウマ)

ベストガード 水溶剤 [1000~2000倍 / 収穫前日まで / 3回以内]
(クロバネキノコバエ類:ネギアザミウマ)

ローテーション散布

5

ディアナ SC [2500~5000倍 / 収穫前日まで / 2回以内]
(アザミウマ類:シロイチモジヨトウ:ネギコガ)

6
15

アフームエクセラ [1000倍 / 収穫7日前まで / 3回以内] (ネギアザミウマ)
[アフーム+マッチ] [1000~1500倍(シロイチモジヨトウ)]

15

カスケード 乳剤 [4000倍 / 収穫14日前まで / 3回以内]
(クロバネキノコバエ類:シロイチモジヨトウ:ネギアザミウマ)

※ ()内はネギハモグリバエ(ハモグリバエ類)以外の適用害虫。使用の際は使用基準を確認してから使用しましょう。

今後注意すべきその他の病害虫等

イネ

1. 苗立枯病

- (1) 病原菌の多くは土壌生息菌である。山土や水田土壌等を使用する場合は、床土のpHを4.5～5.0に調整し、は種前に粉剤の床土混和を必ず行う。
- (2) 低温、多湿に経過するとピシウム属菌、高温、多湿（特に出芽時）ではリゾープス属菌による苗立枯病が発生しやすくなる。育苗中の温度管理に注意し、出芽後は10～30℃の範囲で管理する。特に、トンネル育苗では外気の影響を受けやすいので、日中の高温や夜間の低温に注意する。
- (3) 出芽後はこまめに観察し、カビを認めれば直ちに登録のある農薬で防除する。菌の種類により効果のある薬剤が異なるので注意する。

2. もみ枯細菌病（苗腐敗症）

- (1) 病原細菌は種子伝染するため、塩水選ともみ枯細菌病に登録のある農薬を用いた種子消毒を必ず実施する。
- (2) 出芽時の温度は30℃を基準とする。ただし、加温しない育苗は10～30℃の範囲で管理する。
- (3) 発病苗を植付けると本田で腐敗し、欠株となるので、発病した苗箱の苗は使用せず処分する。

3. 苗いもち

- (1) 種子伝染がいもち病の主要な伝染経路の一つであるため、健全な種子を用い、塩水選と種子消毒を必ず行う。
- (2) 前年の稲わら、籾がらは有力な伝染源となるので、育苗場所の周辺には置かないようにする。

4. 種子消毒について

- (1) 温湯消毒を行う場合は必ず乾籾を用い、処理温度と時間を厳守するとともに、処理後は速やかに水で冷却し、直ぐに浸種・催芽を行う。また、各温湯消毒器の使用上の注意事項を遵守する。

5. スクミリングガイ (ジャンボタニシ)

- (1) スクミリングガイは在来のタニシ類などに比べて貝殻が薄く傷つきやすいので、ロータリー耕うんにより機械的に貝を破碎し密度を低下させることができる。 土壌の水分が少なく田面が硬くなる水稻収穫後の耕耘が最も殺貝効果が高い。 また、土中に潜って越冬するが、その深さは6cm 未満が大部分なので、耕うん深度は浅くてよいが、できるだけ土の硬い時期にピッチを小さくして(通常の1/2 以下の作業速度が望ましい)いっきに耕うんすると殺貝効果が高くなる。さらに、越冬場所をなくすため、水路の泥上げを地域全体で行うと効果的である。
- (2) 苗を移植する前に、田面を細かく耕うんし、越冬した大きな貝を殺す。
- (3) 水路からの侵入を防止するため、取水口に9 mm 目合程度のネットなどを設置する。
- (4) 地区内での発生が一部に限られる場合は、農業機械に付着した泥の含まれる本貝を未発生ほ場に持ち込み、発生を広げないことが重要。 作業を行う順番を考慮するとともに、既発生ほ場からの土の移動の危険がある場合には、農業機械の洗浄等の対策を講じる。
- (5) 貝が水稻に被害を及ぼすのは田植え後、約3 週間までで、その間、水深を出来るだけ浅く保つ。水深1cm が理想だが、4cm 以下に保つと実害が出にくい(貝は水中でのみ摂食する生態のため)。
- (6) 圃場の均平で重要ある。圃場が凸凹だと深いところの株が食害され、一方、土が水から長時間露出すると除草剤の効き目が劣ってくる。田植え前に圃場の高低を修正するとともに、被害が生じやすい田植え直後は極く浅水とし(一部の土が水面上に出ても)、徐々に水深を増加させるなどの工夫が必要。
- (7) 前年の被害が大きかったほ場に移植する苗には、箱施用剤を使用する。

ジャンボタニシの防除対策 (移植水稻)

○水口網の設置 (水路に発生している場合に実施)

○田植え時の薬剤散布 (発生している場合に必ず実施)

- ・田植え時に、貝の発生状況に応じて、効果が高い薬剤を全面散布、貝が集まる深水部分への重点的な散布等を実施。
- ・確実な効果を得るため、散布後しばらくの間、止水管理が必要。

○田植え後の浅水管理 (発生している場合に必ず実施)

- ・水深が浅いと貝の活動が抑制されるため、田植え後約3週間、水深を4cm(理想は1cm)以下に維持。
- ・水田内を均平に保ち、水深が深くなる場所を減らすことが重要。
- ・浅水管理が困難な場合は、薬剤散布との組み合わせにより被害を防止。



用水路(水口)の卵塊



食害を受けた水田

主な防除薬剤

薬剤名	効果	成分名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	メタアルデヒドを含む農薬の総使用回数
スクミナ	殺貝	メタアルデヒド	1～4kg/10a	収穫60日前まで	2回以内	2回以内
ジャンボたにしくん			1～2kg/10a	収穫60日前まで	2回以内	
スクミンベイト3	殺貝 +食害防止	燐酸第二鉄	2～8kg/10a	発生時	—	—

スクミナ



2kg

ジャンボ
たにしくん



2kg

スクミナ・ジャンボたにしくんは、ジャンボタニシが薬剤を食べて体内に吸収されることで効果が発揮されます。

◎ 散布のタイミングを見極めましょう。

ジャンボタニシが摂食活動を始めるとは水温が15℃以上になってからです。平均気温が15℃を上回る時期以降、水温やジャンボタニシの活動を確かしてから薬剤を散布しましょう。

※ 水温が低く、ジャンボタニシが活動していない場合、薬剤の効果が発揮されませんので注意しましょう。

◎ 薬剤散布後少なくとも3～4日は水深3～5cmを保ちましょう。

薬剤の効果を確実にするため、薬剤散布後少なくとも3～4日は、水深3～5cmを保つようにしましょう!

※ 薬剤が崩壊すると効果はなくなります。薬剤散布後は水の出入りを少なくし、田面を静かに保ちましょう。

◎ 殺貝効果が発揮されるのは散布後(長くても)7日間程度。必要に応じて追加散布をしましょう。

1回目の散布7日後に田んぼの様子を見て、活動しているジャンボタニシの密度が高い場合、追加散布を検討しましょう。

密度が低い場合には、水深が深くジャンボタニシが多く生息している箇所を中心に散布しましょう(2回以内)。

スクミンベイト3



2kg

有機JAS対応

- ・ **すぐに食欲をなくし、4～5日で殺貝**
- ・ **環境負荷が少ない防除剤**
- ・ **散布の時期や回数に制限はありません**

ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)は薬剤を接種後すぐに食欲をなくし、稲への食害が無く出来なくなります。弱ったジャンボタニシはエサを食べられずに4、5日後に死亡します。

今後注意すべきその他の病害虫等

野菜

1. ネギ・タマネギ ベと病

- (1) 4月中旬現在、ネギでの発生量はやや多く、タマネギでの発生を確認している。
- (2) 平均気温が15～20℃で降雨が多くなると、病原菌の活動が活発になるので、本病の発生には十分注意する。

べと病

病徴と診断 : 初めに葉・花梗に紡錘形の黄白色・大型病斑を形成し、灰白色の薄いカビを生じる。その後カビは暗褐色～暗紫色になる。病斑部の周縁は明瞭で、病勢が進むと黄白色～灰白色となり葉枯れを生じ枯死する。

伝染経路と

発病条件 : 病原菌は被害植物とともに菌糸、卵胞子の形で越冬する。翌年、気温が上昇し、降雨があると分生胞子を生じ伝染する。4～5月、10～11月頃に雨が続くと多発する。

防除の

- ポイント** :
- 苗床は薄まきにし、肥料を多く施用しない。
 - 薬剤防除は発病前に重点をおき、薬液が付着しにくいので展着剤を加用する。

■ ネギ ベと病の防除体系例

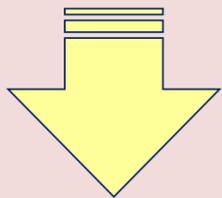
発病前は

I:UN M03(M) **ペンコゼブ** 水和剤 [600倍 収穫14日前まで/3回以内] (さび病:黒斑病)

ペンコゼブ フロアブル [500～600倍 収穫14日前まで/3回以内] (さび病:黒斑病)

シマン 水和剤 [600倍 収穫14日前まで/3回以内] (さび病:黒斑病)

予防剤をローテーション散布



M05(M) **タコニール1000** [1000倍 収穫14日前まで/3回以内] (さび病:黒斑病:小菌核腐敗病:葉枯病)

11(C3) 4(A1) **ユニフォーム** [リドミル+アミスター] [9kg/10a/土寄せ時(但し、収穫45日前まで)/株元土壌混和/1回] (さび病:白絹病:黒腐菌核病)

発病が認められたら

U17(U) **ピシロック** フロアブル [1000倍 収穫前日まで/3回以内] [鱗茎類]

11(C3) **アミスター20** フロアブル [2000倍 収穫3日前まで/4回以内] (さび病:黄斑病:黒斑病:葉枯病:リゾクトニア葉鞘腐敗病)

メジャー フロアブル [2000倍 収穫前日まで/3回以内] (さび病:黒斑病:黒腐菌核病:小菌核病:小菌核腐敗病:白絹病:葉枯病)

治療剤を加えたローテーション散布

40(H5) M05(M) **カーニバル** 水和剤 [フェスティバル+タコニール] [1000倍 収穫14日前まで/3回以内] (さび病:黒斑病)

40(H5) M05(M) **プロポーズ** 顆粒水和剤 [マモロット+タコニール] [1000倍 収穫14日前まで/3回以内] (葉枯病)

40(H5) **レーバス** フロアブル [2000倍 収穫7日前まで/2回以内]

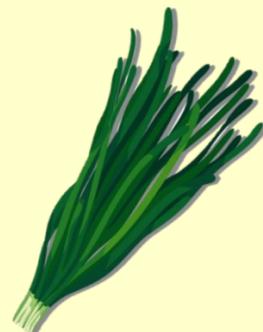
4(A1) M05(M) **フォリオゴールド** [リドミル+タコニール] [800～1000倍 収穫14日前まで/3回以内]

※ ()内はべと病以外の適用病害。使用の際は使用基準を確認してから使用しましょう。

ジェネリックだから
低コスト!!

タマネギ・ねぎのべと病対策に!

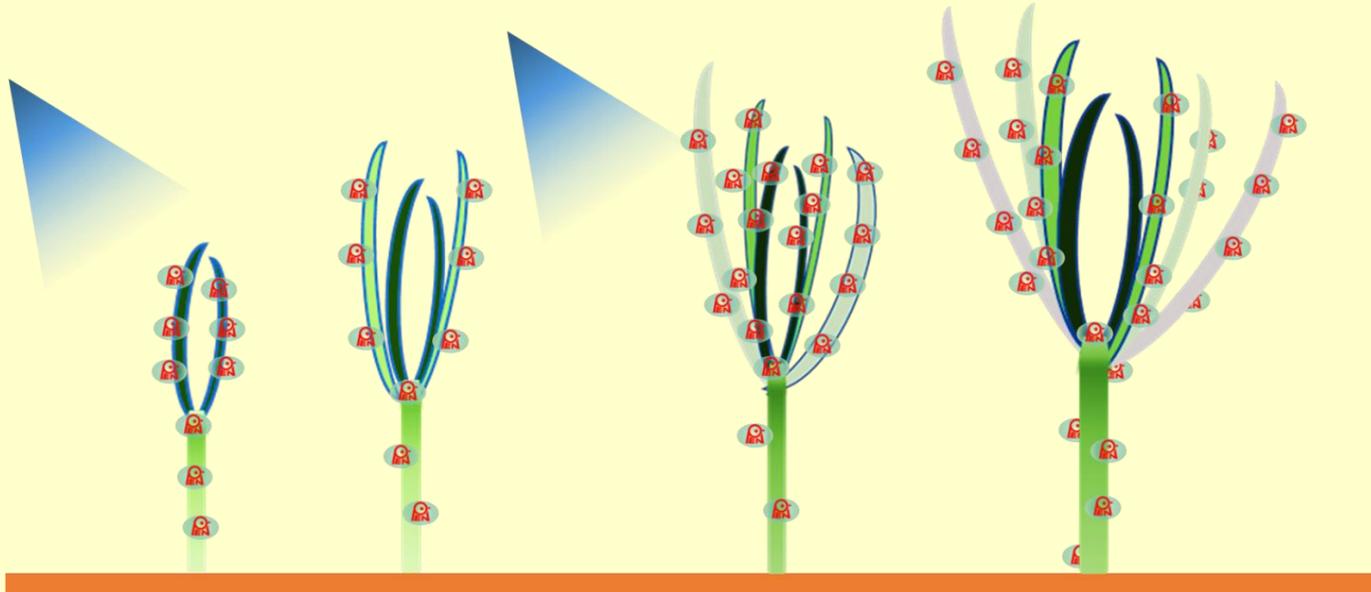
 **ペンコゼブ**
水和剤



効果の現れかた

ねぎの新しい葉はべと病に高い抵抗性がある。新しい葉が出ると前葉の抵抗性は低下し、下位葉ほど罹病化がすすむ。

散布された  **ペンコゼブ** (マンゼブ剤) は、**ねぎ**の表面のクチクラ層やワックス層に付着。浸透移行性がないため有効成分の移動はない。新規葉が抽出するたびに下位葉は罹病化するが  **ペンコゼブ**の保護層によりべと病菌侵入は阻止される。



べと病菌は雨滴の中を遊走子で移動し作物に感染します。

最も罹病性が高い下葉に感染を試みますが

 **ペンコゼブ** (マンゼブ) の効果により感染できません。

